

ぐりふぁん letter



Vol.
38
2019.7

INDEX

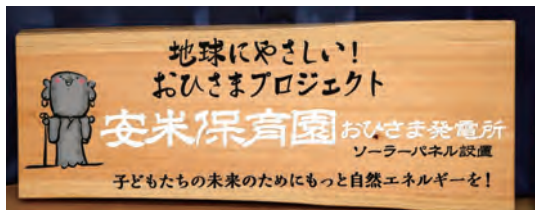
- ◆ 安朱保育園におひさま発電所ができました！
おひさま発電所設置施設募集中!!! . . . 2
- ◆ 脱原発と脱石炭で自然エネルギー社会を目指そう！ . . . 3
- ◆ エネルギー自立の地域づくりで広げるくらしの地産地消の環 . . . 4
- ◆ 市民共同発電所5周年を迎えて . . . 5
- ◆ 2019年総会報告
2019年度環境学習～ぐりにゃん・ぐりわんのパペットが出来ました！～ . . . 6
- ◆ 会員さん こんにちは！
編集後記 . . . 7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

安朱保育園に.....おひさま発電所ができました!

安朱保育園とプロジェクトを進めるための協議を始めたのは、2018年の夏を過ぎた頃でした。保育園にお邪魔して、園長先生や事務担当の方と打ち合わせをするのですが、子どもたちの声が聞こえるので、なんだかうれしくなってしまいます。「やっぱり、保育園におひさま発電所ができるのは、いいなあ」と思っていました。あの子たちの将来のための、おひさま発電所なのですから。



法然上人の開宗800年の記念事業として、地域の要望に応じて開設されたという安朱保育園は、設立50周年の記念事業として思いを込めて「地球にやさしい!おひさまプロジェクト」に取り組みされました。

点灯式では、きょうとグリーンファンドが制作した紙芝居「おひさまありがとう!」を保育士さんが演じ、子どもたちは熱心に聞いてくれました。「わーっ!知らなかったあ」「フーン…」紙芝居の内容はちゃんと伝わっているようでしたね。

子どもたちは、LEDに飾られた花御堂に点灯、「電気を大切に使います。」といったエコ宣言もしてくれました。「世界中の子どもたちがいちどに笑ったら、空も笑うだろう」と、かわいい歌声をきかせてくれました。これは、私たちにとって何よりのご褒美、大人たちはみな笑顔です。子どもたちには、きょうとグリーンファンドが10周年の記念に作った絵本とおひさま発電所の看板となる「木の板」をプレゼントしました。

子どもたちが退場した後は、来賓としてご参加いただいた京都府、京都市のエネルギー担当者からのご祝辞、京都府地球温暖化防止活動推進センターの木原さんのミニ講座と続



地球にやさしい!おひさまプロジェクト 収支報告 (10kW規模) 2019年1月

収入の部		支出の部	
寄付金(110件)	627,000	設備設置費 (EMS計測制御機器含む)	3,132,000
おひさま基金助成	468,000	印刷製本費	187,000
民間助成金	1,000	謝金	20,000
設置施設資金	2,666,000	通信運搬費	36,000
安朱保育園資金	1,700,000	旅費交通費	17,000
京都府自立型再生可能エネルギー導入等補助金	966,000	記録費	54,000
		事務局経費	315,000
		雑費	1,000
合計	3,762,000	合計	3,762,000

(単位:円、千円以下原則四捨五入)

き、最後は設置されたばかりの太陽光発電設備を見学、記念撮影をして点灯式を終えました。これは余談ですが、記念撮影の構図に、子どもたち、保育士さん、参加した大人たち、そして、太陽光パネルが一枚の写真に納まったのは、初めてのことで、私たちはひそかな満足感を味わいました。

点灯式の模様を少し詳しく書いてみましたが、23回の点灯式は、それぞれに感動的なものです。みなさんも、ぜひ一度参加してみてください。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

おひさま発電所設置施設募集中!!!

現在、次の設置施設を募集中です。きょうとグリーンファンドにとって、一番の苦勞の種、兎にも角にも施設が決まらないと、何も始まらないわけです。

伝え聞くとところによると、他の地域で市民共同発電所を進めている団体にとっても、大きな課題となっていて、同じように苦勞されているようです。補助金を出している大阪府は、担当者も積極的に関わっておられるようですが、ないものねだりをしているわけにはいきません。公共施設には、すべてに太陽光発電設備を設置していこう、という施策を進めている自治体もあると聞いています。極端な気象がなにか「ふつう」になってきている昨近、避難所整備の一環としても進めてもらいたい施策だと思います。



脱原発と脱石炭で自然エネルギー社会を目指そう！

認定NPO法人 気候ネットワーク

山本 元



●頻発する異常気象

2018年夏、異常気象、豪雨、記録的猛暑に見舞われました。気象庁は連日の猛暑について緊急会見を開き、「一つの災害と認識している。」としたうえで、「長期的にみると地球温暖化の影響が表れてきている」と説明をしました。さらに、関西では9月に上陸した台風21号が猛威をふるいました。日本損害保険協会による2018年度の自然災害（風水害）の保険金支払額は、過去最高の1.6兆円になったと発表がありました。こうした災害保険金の支払額の裏には、自然災害により尊い人命が失われたり、甚大な被害を受けたりした人が多数居ます。今や、異常気象は日常化しつつあると言っても過言ではありません。

●地球温暖化の将来予測

近年の極端な高温や大雨の頻度が長期的に増加する傾向の背景には、地球温暖化との関連性があるとみられています。これまで、世界平均気温は工業化前から約1℃上昇したことが分かっています。このままのペースで、温室効果ガスの排出を続けると、今世紀末には、工業化前から約4℃上昇すると予測されています。2015年にCOP21において地球温暖化の新しいルール「パリ協定」を採択しました。工業化前からの地球平均気温上昇を2℃あるいは1.5℃に抑制することが掲げられています。このパリ協定の目標を達成するためには、今世紀後半までの早期に温室効果ガスの排出を「実質ゼロ」にすることが必要とされています。さらに、2018年10月に発表されたIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の1.5℃特別報告書によると、このままのペースで気温上昇が続くと、早ければ2030年には1.5℃に達すると予測されています。一方、パリ協定のもとで各国が掲げている削減目標は、必要な削減量に達していません。こうした状況に、子どもたちが立ち上がり、対策強化の必要性を訴えはじめています。

●大人、政策決定者に行動を求める子どもたちの声

昨夏、スウェーデンでグreta・トゥーンベリーさん（当時15歳）が国会議事堂前で温暖化対策の強化を求め、座り込みの抗議を始めました。その行動が「未来のための金曜日」運動として世界中に広がっています。彼女のメッセージに共感した子どもたちが街に出て、対策の強化を求め、声をあげています。グretaさんは、COP24・カトヴィツェ会議において、「自分の子どもたちを何よりも愛していると言いながら、その目の前で、子どもたちの未来を奪っています。」と各国の交渉官を前に訴えました。これまで地球温暖化という問題を知り、十分に対策を行う時間もあつたにもかかわらず、解決の道筋をつけられなかった大人たちへの痛烈な批判です。

●対策強化のための第一歩は「脱石炭」

子どもたちに叱られている大人として、どんな行動をすべきでしょうか。まずは、パリ協定の目標達成に必要なとされる削減量に向けて、対策を強化していくことが必要です。とりわけ、日本の温暖化対策において問題視されているのは、温室効果ガス排出が多い石炭火力発電所を国内外で推進していることです。日本国内での対策強化に限って見ても、排出の約4割を占める発電部門のうち、その約半分が石炭による排出です。現在、約100基の石炭火力発電所が稼働しています。2012年以降、新たに50基の建設が計画されました。このうち13基は、採算性の低下等を理由に中止されましたが、13基が稼働、24基が建設中となっています。2030年の削減目標の達成を危うくすると、環境大臣も懸念を表明してきましたが、多数の計画が建設に入っています。石炭火力発電所は、大気汚染物質を多く排出し、市民の健康も害します。こうした現状を受け、仙台市民が仙台港に建設・稼働中の仙台パワーステーションに操業差止訴訟（民事：関電子会社・伊藤忠子会社）を提起したのをきっかけに、神戸（民事：神戸製鋼/関電、行政：国）、横須賀（行政：国）の計画に対しても、地球温暖化、大気汚染問題を訴える裁判が提起されました。現在、3地域、4つの訴訟が進行中です。地域の環境改善や、地球温暖化対策の強化が必要とされるなか、巨大排出源を新たに建設することは許されないと、市民の意思表示でもあります。

●これまでの政策を変える必要 脱原発と脱炭素へ

地球温暖化対策をより強化していくためには、現在の化石燃料、原子力依存のエネルギー政策を見直すことが必要不可欠です。石炭火力への風当たりが強まるにつれ、再び原発を温暖化対策の主軸にしようとする声があり、政府も事業環境を整えようとしています。これまで原発の設備容量を増やす傍ら、石炭火力の設備容量も増やされてきました。原発が、業界内の不正や地震・事故により想定通り稼働しないことで、バックアップする火力の稼働増により、温室効果ガスの排出が増え続けてきた経過があります。燃料費が安いとされる石炭火力が多用され、発電における石炭消費は90年に比べ2016年には196%の伸びを記録しています。石炭火力と原発に依存することをやめ、徹底した省エネ、地域に根ざした再エネ普及に力を注ぐことこそ、パリ協定の目標達成に向けた道筋が明確になります。

参考) 神戸石炭訴訟 <<https://kobeclimatecase.jp/>>



エネルギー自立の地域づくりで広げる くらしの地産地消の環

市民エネルギーとっとり 手塚 智子

鳥取、と聞くと浮かぶのは砂丘、大山、因州和紙…などでしょうか？鳥取は、四季折々の海の幸山の幸、そして清らかな水にも恵まれています。この自然豊かな鳥取を、子供たちにより良い未来を手渡すために、エネルギー自立の地域をつくろうと市民共同発電所づくりがはじまりました。1号機、空山ポニー発電所（太陽光、10.48kW）は、NPO法人ハーモニカレッジとの協働で2014年3月に完成。現在、5か所約380kWの市民発電所（太陽光）が鳥取産の電気を生んでいます。

発電所づくりと共に、くらし（お金、食、営みなど）の地産地消・産消連携を大事にしています。1号機の建設資金は協賛金（借入金10万円/口を49口）を募り、県の補助金も活用しました。この借入金は、毎年1万円を10年間、お金か県産品で返済しています（有機JAS米、温泉券、県畜産農協のお肉買物券、鮮魚セット、地元米で醸された地酒など）。産品での返済を実現できたのは多様な生産者の方々の協力があってこそ。そして鳥取の豊かな自然の賜物と、感謝しています。

2～5号機は、県畜産農協の直売所等の屋根、県有地、県施設の屋根に設置。株式会社を設立し、地銀融資、市民出資、私募債、寄付により建設資金の8割を県内から調達しました。売電収入は返済のほか、保養キャンプや甲状腺検査支援などに活用しています。3～5号機（約324kW）が生む電気は「株とっとり市民電力（※1）」へ売電し、地元の家庭などに届けられます。紆余曲折をへて電気の地産地消を実現できた時には、みんなで喜びあいました。卒FIT太陽光発電電力の買取りについても連携の検討を始めています。スイッチング率（低圧）は、中国地域では4%台とまだまだ。地元や生協の新電力を選ぼうと、呼びかけています。

鳥取県には原発も火力発電所もありません。一方、企業局や電力会社、組合等による水力発電などの再エネ設備が約930MWあり、県内で家庭の消費電力量の約100%を、全電力消費量の約4割をカバーしています。電気、そしてエネルギー自立に向けて、地域にねざした小水力等の開発、効果的な省エネとくらしの地産地消の環を広げることがカギになります。いま、人口減少・少子高齢化社会、気候変動時代に生きる私たち。このまま枯渇する輸入資源を使いつづけ巨大インフラを維持できるか、リスクと負の遺産をさらに増やさないか、どんな暮らし方を、未来を自分たちは選ぶか……。防災の視点からも対話イベントやワークショップを開催しています。

2017年2月に鳥取は38年ぶりの大雪にみまわれました。この時、3号機（野立）が雪害に遭い、1/4が破損。自然への感謝と共に畏れを忘れてはならないことを再認識しました。引き金は大雪ですが、原因は設計の甘さでした。自らの勉強不足と共に、地域エネルギーを基調とする未来に向けて、業界全体の安全意識や施工品質の向上、地域ごとの知見の蓄積・共有が必要であることを痛感。雪害をきっかけに、行政・事業者・市民・専門家の意見交換の場を作っています。市民電力連絡会（※2）では、こうしたトラブル事例を共有し安全で持続可能な発電所づくりを進めようと、トラブル対策研究会も動き始めました。

もうけ偏重の再エネ発電所による乱開発も見逃ごせません。地域にあるものをていねいに、自然と共生できる範囲で使うこと、外の資源や経済に過度に依存せず、くらしの自治をひとつひとつ取り戻すことが、原発が象徴する強権的な社会から、地に足の着いた未来へのシフトにつながると考えます。その点で、食べ物とエネルギーはよく似ていませんか。その日食べるものが体調を左右するように、エネルギーを選べば社会は変わります。

2002年、法然院森のセンターを訪れ、おひさま発電所にはじめて出会った時の眩しさ、ワクワク感を今も思い出します。だれもが地元産のエネルギーでこちよい日々を過ごせる未来を、鳥取からもめざしていきます。

（※1）鳥取ガス9割、鳥取市1割出資、2015年8月に設立された地域新電力。自治体出資の地域新電力は県内に計4社。

（※2）2014年2月、市民・地域主導の再エネ発電に取り組む市民電力団体、関心を寄せる人々が連携し活動を推進するために設立されたネットワーク組織。連続講座や見学会開催、市民発電所台帳づくり、課題の共有、政策提言などに取り組んでいる。





市民共同発電所 5周年を迎えて

NPO法人リアルにブルーアースおおさか 理事長 武田 智津枝

私達NPOの誕生は、2011年3月の福島原発事故が、きっかけでした。

生協の組合員活動を通し、地球温暖化の問題の大きさ・省エネの大切さを感じ、活動していた私達ですが、原発事故を目の当たりにし、「使い方だけでなく、電気の作られ方にも関心を持つべきだったのではないか」「自然エネルギーの良さは知っていたけれど、結局は、原発に依存して暮らしていた」との反省・後悔・申し訳なさを強く感じました。

そんな私たちでも何かできることはないのか？何かしたい！と考え、たどり着いたひとつの答えが、市民共同発電でした。

みんなの力で市民共同発電所を作りたいと、仲間が集まり、NPOが誕生しました。

市民共同発電所実現にむけ、先輩達から学ぼうと、まずお邪魔したのが、きょうとグリーンファンド様でした。現地見学もさせて頂き、多くの事を学ぶことができました。

場所・資金集め・運営・法人化等々、初めての事ばかりで、私達にはチャレンジの連続でしたが、たくさんの方々への応援・協力・激励を頂き、2013年10月10日NPO法人となり、発電所設置、2014年1月には、『リアルに協同発電しよ・ながお』の点灯式を迎える事ができました。

「協同」の文字には、多くの人の心・力を寄せ合うという意味をこめ、あえて「共同」ではなくこの文字を使うことにしました。

点灯式は寒い雪の日でしたが、きょうとグリーンファンド様始めたくさんの方々へ祝って頂きました。皆様が期待を寄せてくださっている事を再認識し、身が引きしめる思いを抱いた事を昨日の事のように思い出します。



設置から5年、私達の活動のきっかけとなった原発事故から8年。この間、地球温暖化は、どんどん進み、暮らしへの影響が、益々顕在化してきました。ゲリラ豪雨・竜巻・大型台風・熱中症・・・世界的課題として、これ以上温暖化を進めてはならないと、パリ協定も結ばれました。そして、世界は、確実に脱炭素社会へと舵をきってきています。

しかし、我が国では、原発事故で安全神話が崩れ、核廃棄物問題も解決していないのに、原発の再稼働が進み、また、CO2排出の多い石炭火力発電の新設も行われています。再生可能エネルギーも重要だと位置付けてはいるものの、増やす気がないのではと思わざるを得ない現状です。

私達市民一人ひとりが、エネルギーの使い方だけでなく、作られ方にも関心を寄せ、子どもや孫、将来世代に何を残し、何を残してはいけないのか、一緒に考えていくことが、益々大切だと思います。

私達は主婦の集まりで、研究者や専門家のいないNPOです。そんな私達だからこそできる事もあると信じています。

市民共同発電所という形があるからこそ、伝えられる事もありますが、市民共同発電所を増やしていく事には難しい面もあります。でも、私達は前に進んでいきます。自然エネルギーの可能性や、温暖化の現状を知らせていくため、ソーラーキーホルダーのワークショップ・クイズ・学習会等を通じて考えてもらう活動を継続しながら、さらにソーラークッキングや、ペラダ発電にも挑戦したいと考えています。

自然エネルギーは、争うことなく分かち合える、誰も不幸にしないエネルギーだと思います。自然エネルギーがもっと増えていくよう、微力ではありますが、活動していきます。今後とも、よろしくお願いいたします。



2019年 総会報告

2019年総会では、(株)吉川商店と安朱保育園の2ヵ所のおひさま発電所完成を報告することができ、ほっとしました。メインの事業が順調に進む、これがなによりだと思うからです。環境学習では、継続的な取り組みのほか、少しずつ新しい試み、工夫にもチャレンジ。さらに広がる可能性を感じています。

財政基盤が貧弱な点は相変わらずで、単年度収入が少し減ったこともあり、赤字となっています。これは繰り越し分でカバーできるものと考えていますが、会員、特に正会員が減少したことも響いているように思います。3000円程度の学生会員を設けては、という意見も出され、2019年度の検討課題のひとつとなりました。

残念なのは、長年監事を務めていただいていた川野雅巳さんが、任期途中ですが退任のご意向を示されたことで、「体調が…」ということでしたので、致し方ありません。以前理事を務めていただいていた阿蘇紀夫さんが、快く後を引き継いでいただくことになりました。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)



2019年度 環境学習

～ぐりにゃん・ぐりわんのパペットができました!～

今年度も「平和堂財団環境保全活動助成事業 夏原 Grant」の助成を受けることができました。3年目となります。この助成により、過去2年間、「おひさま発電所」設置の園はもちろんのこと、そうでない園、児童館などにも環境学習を提供することができました。

きょうとグリーンファンドでは、環境腹話術、自然観察会、職員研修（省エネやエコ教材作り等）などの環境学習を行っています。

昨年度は、「エコすごろく作りのワークショップ」を職員、保護者対象に実施しました。先生方の環境への認識が深まり、子どもたちはすごろくで遊びながらエコを学んでいると感想が寄せられました。



今年度は、きょうとグリーンファンドの紙芝居から生まれたキャラクター「ぐりにゃん」と「ぐりわん」のパペットを作成、畠山さんによる環境腹話術でデビューしました。子どもたちに大人気です。また、夏原 Grant の助成によって、パペットを使った、エコについて子どもたちに伝えるシナリオのワークショップを実施する予定です。

3年間の助成の総仕上げとして、環境学習をより一層充実させたいと思っています。

◆2019年度 環境学習予定

★みなさんも一度、環境学習を機に、元気な子どもたちに会ってみませんか？

参加ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

環境腹話術

7/25(木) 10:30～11:00

7/30(火) 10:30～11:00

10/29(火) 10:30～11:00

自然観察会

10/18(金) 10:30～

10/30(水) 9:30～13:00

11/9(土) 時間未定

(きょうとグリーンファンド 深川佳子・山本照美)

6月1日に開催されました、2019年度きょうとグリーンファンド総会で司会をさせていただきました、山田美鈴です。慣れない司会進行で、大変ご迷惑をおかけしました。

きょうとグリーンファンドの皆さんにお世話になりまして数年の月日が経ちました。私の住む八幡市にも、「おひさま発電所を作りたい！」との思いで、沢山の勉強やアドバイスをいただいて参りましたが、まだまだ実現できていません。地域に自然エネルギーの理解や知識を広げることの難しさに直面する毎日です。おひさま発電所の報告や学習会など、グリーンファンドの取り組みに触れさせていただき、私自身もエネルギーをいただき、また一念発起の思いで八幡への帰路へ着く、先日の総会でありました。

総会の学習会では、大手電力事業者だけでなく、馴染みある大手ガス事業者さえも、原発の必要性を明言していたことには驚かされました。私自身は、早い段階で電力を「ハッピーエナジー」に切り替えていましたが、事業者に環境や未来までも視野にいれたエネルギー転換を求めるためには、まずは自分たちが行動で示さなければいけないのだなとあらためて気づかされます。その為にも、まずは地域の方に自然エネルギーの良さや現状を知っていただける為の啓発を進めていかなければならないのですが、今の日本では、自然エネルギーの学びの場が本当に少ないなと感じている中、こうして学びや知恵をいただけるグリーンファンドの皆さんに本当に感謝しています。ありがとうございます。

・・・山田 美鈴さん

先日は2019年度総会と勉強会おつかれさまでした。勉強会では石炭火力発電の現状と脱石炭の動きについて紹介いただき、とても参考になりました。特に気候変動訴訟の取り組みが興味深かったです。アメリカでのハリケーン被害に対する損害賠償請求は、比較的分かりやすいロジックですが、被害を未然に防ぐタイプの民事訴訟はハードルが高いかなという印象を持ちました。ただ、このタイプの訴えが認められれば、他の環境訴訟にも応用がききそうですので、今後の展開に期待したいです。

学習活動で紹介されていた、エコすごろくづくりも面白そうな活動でした。すごろくの写真を撮らせて頂いたので、プリントアウトしたものをA3に拡大して、試みにゼミの学生にプレーしてもらいました。最初は、え？すごろく？っていう感じでしたが、実際にサイコロを振って始めてみると、結構盛り上がりプレーしてくれました。

感想をきくと「すごろくの文言が面白くて可愛かった」「たまにやってしまうことを指摘されていた」「思ったより面白かった、大学生版を考えてみたい」ということでしたので、大学生向けの文言を考えてもらいました。「自炊したよ、3つすすむ」「タバコを吸いすぎた、5つ戻る」「水筒をもって学校にいった、2つすすむ」「タピオカをポイ捨てした、1回休み」など、今風のアイデアも出てきて面白かったです。また、賞味期限間近の弁当を買うのは、どの程度エコかといった議論も起きたりしていて、自分たちの行動を考える一つのきっかけにもなったようです。

昨年吉川商店さんの点灯式に引き続き、今年も有意義な参加になりました。今後ともよろしく願いいたします。

・・・大浦 宏邦さん

編集後記

・「廃プラスチックが急に問題として浮上してきました。分別してリサイクルされてると思っていたのが、輸出されていたとは思いませんでした。ノーブラを目指したいと思っても、私たちの暮らしはあまりにプラスチックに依存しており、簡単なことではありません。温暖化だけでなく、環境問題はますます深刻になっていますが、地道に解決の途を探っていくしかないのかもしれない。」(K.M)

・波打ち際に積もったプラスチックごみが分解する際に、メタンガスが発生するという番組を見て、思わずうなってしまいました。私の中で温暖化防止とプラごみ対策がドッキング。(K.O)

・5月に真夏日があったり、梅雨入りが7月間際。この夏はどうなることか…。昨年のような台風は「かんにん」してほしい～！(Y.F)

・今日は静かに咲いた紫陽花に、豪雨ではなく、60年前の子どもの頃のように、しとしとと雨が降っています。心安らぐひと時です。(T.Y)

・大阪の市営住宅に住んでますこの春から空き室に民間の保育園が入居してきました。きらきらした瞳で敷地内を散歩している姿を見るだけで心が和みます。子供達の未来は自然エネルギーがもっと普及する社会にしたいですね。(Y.M)

・大阪ガスが、山口県宇部市に建設予定の石炭火力発電所から撤退する事を表明しました。昨年の株主総会に押しかけた成果か！？まだ建設中止は表明されていないが、市民活動の「成果」が出ました。とりえず祝！乾杯。再エネも「成果」を出したいですね。(T.H)

・「脱プラ、を目指したいが、プラスチックを使わずに生活することは難しい、というより不可能。気負わずできることから始めよう！今年の夏祭りはストローをやめ木製スプーンに。(S.K)

《 ぐりふあん日誌 》

- | | | | |
|--------|----------------------------------|-----------|------------------------------------|
| (2019) | 5/9 | 第二深草保育園訪問 | |
| 1/22 | 再生可能エネルギーWG定例会議／気候ネットワーク | 5/12 | おひさまウィーク参加／上鳥羽北部いきセン |
| 1/26 | 環境学習WSエコすごろくを作ってみよう／大宮保育園 | 5/14 | 宮本ファーム訪問 |
| 1/29 | 京都府地球温暖化防止活動連絡調整会議出席
／ハートピア京都 | 5/16 | 環境腹話術／つし保育園 |
| 1/30 | 地球こやさしいおひさまプロジェクト点灯式
／安朱保育園 | 5/17 | 再生可能エネルギーWG定例会議／気候ネットワーク |
| 2/4 | 自然エネルギー学校検討会議／気候ネットワーク | 5/20 | 自然エネルギー学校検討会議／気候ネットワーク |
| 2/9,10 | コモンズシアターワークショップ参加／京田辺龍馬館 | 5/22 | 環境腹話術／大宮保育園 |
| 2/17 | フルガ 1st かつ京都の集い参加／京都アスニー | 5/23 | KGPN幹事会／ウイングス京都 |
| 2/25 | 再生可能エネルギーWG定例会議／気候ネットワーク | 5/24 | 市民電力連絡会連続講座参加／エコギャラリー新宿 |
| 2/27 | 地球こやさしいおひさまプロジェクト打合せ
／安朱保育園 | 6/1 | 第126回理事会・総会・学習会 |
| | 株式会社ウエダ本社訪問 | 6/4 | 自然観察会(おおやけこども園)／京都御苑 |
| | 第124回理事会 | 6/10 | 環境腹話術／おおやけこども園 |
| 3/8 | 東本願寺訪問 | 6/13 | 社会福祉法人宇治東福祉会訪問 |
| 3/25 | 再生可能エネルギーWG定例会議／気候ネットワーク | 6/15 | 自然エネルギー学校・京都2019第1回
／京エコロジーセンター |
| 3/28 | KGPN幹事会／ウイングス京都 | | 京都府地球温暖化防止活動推進府民会議総会出席 |
| 3/26 | 平和堂財団環境保全活動助成「第8回夏原グラント」
助成決定 | 6/18 | 再生可能エネルギーWG定例会議／気候ネットワーク |
| 4/10 | 第125回理事会 | 6//22 | 祝5周年市民共同発電しよ・なかお参加
／大阪パルコープ |
| 4/18 | 自動販売機学習会 | | 省エネワークショップ～施設をエコで～
／陵ヶ岡こども園 |
| 4/24 | 地球こやさしいおひさまプロジェクト打合せ
／安朱保育園 | 6/25 | 立命館大学にてゲストスピーカーとして活動紹介 |
| 4/30 | アースガーデン、田歌舎訪問 | 6/27 | KGPN(元京都グリーン購入ネットワーク)総会出席 |
| | | 7/1 | 自然エネルギー学校検討会議／気候ネットワーク |

□ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によって
ささえられています。
おひさま基金へのご寄付は ゆうちよ振替をご利用下さい。

ゆうちょ銀行振替口座番号:00930-6-157817
加入者名:きょうとグリーンファンド

★2015年4月1日付で京都市から認定NPO法人として再認定されました。
認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数 67

正会員 38 賛助会員 24

法人会員 5 2019/7 現在



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角堺町21 事務機のウエダビル206
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org
URL ; http://www.kyoto-gf.org (火～金 13:00～17:00)

